

高岡ロータリークラブ



2025/3/6

会長／田中 哲 幹事／山口 洋祐

No.34

例会日：木曜日 12:30～13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.68

司会 車会場監督 点鐘 田中 会長
国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト
ゲスト並びにビジター紹介

- 高岡市民文化振興事業団エグゼクティブプロデューサー
オイスカ富山県支部常任幹事、事務局次長 山本広志様
- 米山奨学生
バタラチ アマルバヤスガラント 君

会長挨拶／報告

- 誕生祝
木村 聡 さん (3/9・61才)
石崎 仁康 さん (3/11・55才)
- 皆出席表彰
駒井 宏 さん (15年)
菅野 克志 さん (7年)
- 米山記念奨学会より感謝状と
メジャードナーピンバッジ贈呈
第 10 回メジャードナー 永田 義邦 会員
- 米山奨学生 アマラ君に奨学金のお渡し
…アマラ君より一言
- 退会会員紹介 退会記念品の贈呈
…大谷 嘉一さんより一言

幹事報告

- 3月のロータリーレート 1\$=150円 (2月 154円)
- 3番テーブルミーティング⇒本日 18:00 moku
- 卓上⇒高岡市美術館のご案内チラシ

ニコニコBOX 12件 66,000円

大谷君／大変お世話になりました。
田中会長／副会長、幹事、SAA が揃って出張により欠席。非常事態宣言か？代理をされる方々が育つことになるとうれしいですね。
永田君／オイスカ富山県支部常任幹事、事務局次長・山本広志様を本日の卓話にお迎えいたしまして。よろしくお願ひいたします。
前川君／1月28日に長女に男の子が生まれました。外孫ですが、私にとっては75歳にして初孫です。長女からロータリークラブとほおのきでの口止めを

されていましたが、瀬川が県議会で初めて育休をとったと新聞で記事になったり SNS で報告をしますので、遅まきながらニコ BOX いたします。
松原君／3月5日(水)北日本新聞トップ面にヨネックス立山工場バドミントン用品生産 27年完成！の文字が躍る。また、本日朝刊コラム「天地人」にも創業者米山稔さんの自著「ピンチはチャンス！」親会社の倒産など様々なピンチを紹介。長岡と高岡との遠隔地に関わらず、当社もヨネックスも創業の労苦を共にしました。現在、取引会副会長職や持株会幹事役を引き受けております。富山県での新工場立地においても微力ながらお手伝いさせていただいて、高岡、砺波地区もご案内しましたが、残念ながら工場は国内外からの見学者が多く、新幹線「かがやき」が停車する富山駅から20分以内の時間と将来3倍近くの土地拡張性があるなど制約条件がありました。バドミントンの聖地は高岡であり、高岡市役所から始まり、三協アルミ、トナミ運輸と引き継がれてきました。高岡において他の可能性を引き続きヨネックスのトップに提案し続けてまいります。
藤田君／高岡市美術館の村上様、ようこそお越しくださいました。銅合金組合の村上塾では、いろいろお世話になり有難うございます。ゆっくりお過ごしください。
竹中君／高岡市美術館村上館長、ようこそ高岡ロータリークラブへ。銅器組合 50周年記念事業ではいろいろとお世話になっております。
岡本(欣)／アマラ君の米山奨学金の給付は本日が最後となりました。この3月25日に富山大学医学部を卒業し修士となり、その後は、文部科学省の奨学生となり、引き続き富山大学附属病院で博士号取得を目指すことになっております。今回もロータリーメンバーの皆さんのおかげで、能力ある医学生を世に送り出していただいたことに感謝し、同じメンバーとして誇りに思います。この後もアマラ君は富山におりますので何かと今後も富山におりますので、何かとご指導のほどよろしくお願ひいたします。
カウンセラー・岡本欣治
島君／このたび島小一が TEK グループ会長就任に伴い、株式会社高岡市衛生公社の代表取締役社長に就任することとなりました。当社を、これまで支えて

くださったロータリークラブの諸先輩方に心より感謝申し上げ、引き続き変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

四津谷君／昨日、上市町で講演をさせていただきました。その中で、佐伯有頼の立山開山伝説を漫画で絵解きするために、下手なりに描きました。今、インターネットの絡みで前田利常のマンガを計画中です。乞うご期待！

P.S. 前回のTBS「がちりマンデー」に加茂さんが出演していました。がちり儲けたようです。古城公園の管理も大変でしょうが、頑張ってください。

石崎君／誕生祝いをいただきありがとうございます。

杉林君／本日は所用のため早退いたします。

<プログラム> 卓話

『50周年を迎えたオイスカ富山県支部』

山本広志様

県の文化施設の管理運営に携わってきて、ご縁があって高岡市民会館のリニューアルに合わせて現職に就くこととなりました。舞台技術者として舞台監督や音響・照明のプランナーを務めてきた活動に対し、文化庁長官表彰をいただく機会にも恵まれました。

市民文化振興事業団では、コロナ禍でも文化活動が停滞しないようオンラインパフォーマンスを企画し、YouTubeで合唱団や日本舞踊団体の演技を配信しました。無料コンサートを駅や商業施設で開催する「ユニークベニュー」は200回を数え、ゼロ歳児コンサート、高岡市民芸術祭の運営などに関わりながら、企業協賛を得て文化事業の継続に努めています。高岡の文化水準は非常に高く、舞台芸術や合唱、伝統芸能のレベルは全国的にも誇れるものです。

さて、ここからはオイスカの話をしていただきます。オイスカというのは、「気候・産業・文化・精神・文化・促進」の調和を目的とした国際協力団体で、日本企業の皆様の支援を受けながら、東南アジアや南米で農業普及や生活改善、環境保全などを行っています。富山県支局は1961年、富山県支部は1975年に設立され、今年で設立50周年を迎えました。

オイスカの事業は主に4つに分かれています。1つ目は海外開発協力で、農業指導や生活改善の支援を行います。2つ目は子供の森計画で、子供たちと一緒に植林をし、環境の大切さを学んでもらう活動です。3つ目は人材育成。日本に研修センターを設け、海外からの研修生を受け入れています。4つ目が環境保全と国際理解の促進で、東日本大震災後には名取市の松林再生に貢献しました。

1976年に高岡の青年経済人たちがタイを訪問し、オイスカの農業指導員が現地で奮闘する勤勉な姿を目の当たりにしました。帰国後、彼らは募金活動を行い、110万円を集めてタイの研修センター建設を支援しました。これがきっかけとなり、継続的にオイスカの支援を行うようになり、現在の富山県支部の基盤が築かれたのです。

1979年には、高岡青年会議所(JC)がオイスカと共同し、高岡市でアジア太平洋青年幹部会議を開催しました。その際、タイの駐日大使が「あなたたちはタイの資源が欲しいのか」と尋ねたのですが、高岡JCの方々は「そうではなく、世界中の人々が幸せになることを願って活動している」と答えました。この純粋なボランティア精神に感銘を受けた大使は、涙を流したそうです。こうした交流があったからこそ、オイスカは今も50年にわたって活動を続けられているのです。

現在、オイスカ富山県支部では「緑の里山保全・森づくり活動」として、立山町で1000本の広葉樹を植えたり、環境フェアで「森の積み木広場」を開催したりしています。毎年「緑の植林協力隊」を海外に派遣しています。こうした活動を通じて、オイスカは「地球上すべての人々が幸せに暮らせる社会」を目指しています。今後、皆様にはオイスカの活動に対しご理解ご支援を頂けたら幸いです。今日は皆さんにオイスカの歴史や活動を紹介させていただいたことをうれしく思います。ありがとうございました。

